

# 2026年3月期 第1四半期決算短信[IFRS] (連結)

2025年8月7日

上場会社名 ユキグニファクトリー株式会社

上場取引所 東

工場芸社石 ユギジーファグトリー休式芸社 コード番号 1375 URL https://www.yukiguni-factory.co.jp/

(役職名) 代表取締役社長

(氏名)湯澤 尚史

代表者 問合せ先責任者

(役職名) 代表取締役任長 (役職名) 経営企画本部 IR・広報部長

(氏名) 米山 正芳

TEL 025 (778) 0162

配当支払開始予定日 -決算補足説明資料作成の有無:有

(百万円未満切捨て)

決算説明会開催の有無 : 無

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日~2025年6月30日)

### (1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	収益	益	営業和	利益	税引前四章	半期利益	四半期	利益	親会神 所有者に 四半期	帚属する	四半期包合計	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	8, 838	△13.1	△719	-	△736	-	△640	-	△636	-	△622	-
2025年3月期第1四半期	10, 172	22. 9	△87	-	△101	-	△101	_	△99	-	△78	-

	基本的 1 株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△15.95	△15.95
2025年3月期第1四半期	△2. 48	△2. 48

### (参考)

	売上収3	益	コア営業	利益	コアEBI	ГDА	コアEBITDA マージン
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%
2026年3月期第1四半期	7, 284	△1.8	22	△78.6	575	△15.5	7. 9
2025年3月期第1四半期	7, 419	12. 8	105	ı	681	93. 3	9. 2

<sup>(</sup>注) 2025年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しております。

# (2)連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	33, 609	11, 393	11, 233	33. 4
2025年3月期	37, 868	12, 525	12, 366	32. 7

## 2. 配当の状況

		年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2025年3月期	-	3. 00	-	12. 00	15. 00			
2026年3月期	-							
2026年3月期(予想)		4. 00	-	12. 00	16. 00			

<sup>(</sup>注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無:無

## 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	収益	益	営業和	可益	税引前	利益	当期和	可益	親会社の開帰属する		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51, 970	△2. 2	3, 270	35. 1	3, 070	41. 1	2, 010	34. 4	2, 010	33. 8	50. 39

# (注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無:無

### (参考)

(9.1)							
	売上収額	益	コア営業	利益	コアEBI	TDA	コアEBITDA マージン
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%
通期	38, 880	4. 8	3, 730	△3. 3	6, 220	0.4	16.0

#### ※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更:無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

① IFRSにより要求される会計方針の変更:無

② ①以外の会計方針の変更: 第

③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年3月期1Q	39, 910, 700株	2025年3月期	39, 910, 700株
2026年3月期1Q	36,666株	2025年3月期	6,666株
2026年3月期1Q	39, 882, 215株	2025年3月期1Q	39, 884, 660株

## ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー:無

# ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

#### (その他特記事項)

- (1) 当社グループは、国際会計基準(以下「IFRS」という。)を適用しております。
- (2) コア営業利益 営業利益 IAS第41号「農業」適用による影響額 その他の収益及び費用 一時的な収益及び費用
- (3) コアEBITDA=コア営業利益 + 減価償却費及び償却費
- (4) コアEBITDAマージン=コアEBITDA ÷ 売上収益
- (5) IAS第41号「農業」適用による影響額とは、IAS第41号「農業」を適用し、きのこの生産工程である仕込みから 収穫時までのきのこを生物資産として、売却費用控除後の公正価値で測定するものであり、当該公正価値の変 動による利得及び損失を影響額としております。
- (6) その他の収益及び費用とは、主に減損損失、固定資産除却損等となります。
- (7) 一時的な収益及び費用とは、通常の営業活動では発生しない一過性の収益及び費用となります。なお、前第1 四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間において、一時的な収益及び費用の発生はありません。
- (8) コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンはIFRSにより規定された指標ではなく、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社グループが有用であると考える財務指標であります。当該財務指標は、非経常的損益項目及び競合他社に対する当社グループの業績を適切に示さない項目の影響を除外しております。なお、コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、IFRSに準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社グループにおけるコア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があり、その結果、有用性が低下する可能性があります。

#### (決算補足説明資料 (決算説明資料) の入手方法について)

決算補足説明資料 (決算説明資料) は、TDnetで開示するとともに、2025年8月7日付にて当社ウェブサイトに掲載しております。

# ○添付資料の目次

1.	経:	営成績等の概況		2
	(1)	当四半期の経営成	績の概況	2
	(2)	当四半期の財政状	態の概況	4
	(3)	連結業績予想など	の将来予測情報に関する説明	4
2.	要網	的四半期連結財務諸	表及び主な注記	5
	(1)	要約四半期連結財	政状態計算書	5
	(2)	要約四半期連結損	益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
	(3)	要約四半期連結持	分変動計算書	9
	(4)	要約四半期連結キ	ャッシュ・フロー計算書	10
	(5)	要約四半期連結財	務諸表に関する注記事項	11
		(継続企業の前提に	関する注記)	11
		(セグメント情報)		11
		(1株当たり利益)		12
		(重要な後発事象)		12

#### 1. 経営成績等の概況

#### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2025年4月1日から2025年6月30日)における国内経済は、雇用・所得環境の改善や底堅いインバウンド需要が見られた一方で、歴史的な円安水準の継続や物価上昇の長期化、米国の政権交代による通商政策の不確実性、中東・ウクライナ情勢の長期化に起因する資源価格の不安定化等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境におきましても、世界的な異常気象や円安の影響による原材料価格の高騰、物流費や包装資材コストの上昇を背景に、食品価格の値上げが相次いでおり、消費者の節約志向は継続しております。

このような経済環境の中、当社グループは、2023年12月に刷新いたしました中期経営計画の達成に向け、国内・既存事業の更なる強化に留まらず、海外市場や新規領域へ積極的に展開し、多様な事業ポートフォリオの構築に取り組んでおります。前連結会計年度におきましては、新規事業として開発を進めてきたまいたけを主原料とする代替肉製品「キノコのお肉」の発売を開始いたしました。「キノコのお肉」は、まいたけの特長を最大限に活かし、肉のような食感と旨味を備えながらも、低糖類・高食物繊維という健康志向に応える特性を有する製品であります。2025年6月には、大阪・関西万博における新潟県催事「大地と雪の恩恵~未来へつなげる新潟の食と伝統~」に出展し、当製品のステージイベントと試食を通じて、未来の食としての可能性を広く発信いたしました。

当社グループは、引き続き、これまでの「雪国」において磨き上げてきた技術や探求心、伝統と信頼を引き継いで、自然の恩恵であるきのこが持つあらゆる可能性を追求し、新たな価値を提供し続けることで世界の健康に貢献してまいります。

当第1四半期連結累計期間の収益は、8,838百万円(前年同期比13.1%減)、このうち、売上収益は、7,284百万円(同1.8%減)となりました。また、売上総利益は、1,428百万円(同29.1%減)となりました。販売費及び一般管理費は、2,183百万円(同4.8%増)となりました。

以上の結果、営業損失は、719百万円(前年同期は営業損失87百万円)、親会社の所有者に帰属する四半期損失は、636百万円(前年同期は親会社の所有者に帰属する四半期損失99百万円)となりました。なお、当第1四半期連結累計期間においては、IAS第41号「農業」の適用に関する公正価値変動による利得が、収益に1,553百万円(前年同期比43.6%減)、売上原価に2,457百万円(同13.1%減)、それぞれ含まれております。

### [2026年3月期第1四半期連結累計期間業績]

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)	増減率 (%)
売上収益	7, 419	7, 284	△1.8
公正価値変動による利得	2, 752	1, 553	△43. 6
収益合計	10, 172	8, 838	△13. 1
営業損失 (△)	△87	△719	_
税引前四半期損失 (△)	△101	△736	_
親会社の所有者に帰属する 四半期損失(△)	△99	△636	_

### まいたけ

社名変更に伴い商品パッケージを一新するとともに、当社の強みである豊富な製品ラインアップを活かし、 更に利便性やお得感を加えた新設計製品の拡充を図ることで、消費者の皆様のニーズを着実に捉えた幅広い商 品提案や販促企画提案に努め、店頭シェアの拡大及びプレミアムブランド戦略の強化に取り組んでおります。 また、季節行事に応じた売り場展開や調理メニュー提案等により、更なる需要拡大を推進しております。

前年同期に比べ販売単価は上回りましたが、販売量は減少いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間においては、まいたけ事業の売上収益は、3,544百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

#### ② エリンギ

定番製品は小型パックから大型パックまで各種量目を取り揃え、お客様ニーズに応じた多様な商品提案に取り組んでおります。また、利便性が高いカットエリンギの店頭詰め放題企画の実施等、お買い得感と楽しさを訴求した集客企画提案を推進し、需要拡大を図っております。

前年同期に比べ販売単価は上回りましたが、販売量は減少いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間においては、エリンギ事業の売上収益は、904百万円(同0.2%減)となりました。

#### ③ ぶなしめじ

1株製品を中心に販売施策を組み立て、安定した価格運営を推進するとともに、青果市況と市場の動向を注視し、需給バランスに応じて量目の異なる2株製品を活用する等、柔軟な製品投入に取り組んでおります。

前年同期に比べ販売量は減少いたしましたが、販売単価は上回りました。この結果、当第1四半期連結累計期間においては、ぶなしめじ事業の売上収益は、1,685百万円(同5.3%増)となりました。

### ④ その他の茸

マッシュルームは、引き続き生産状況の安定化に注力するとともに、販促企画の実施による販売強化及び新たな需要創造に取り組んでおりますが、前年同期に比べ売上は低調に推移いたしました。また、本しめじ、はたけしめじ及び当社海外グループ会社で扱うマッシュルーム、エキゾチック・マッシュルームの売上も、前年同期に比べ低調に推移いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間においては、その他の茸事業の売上収益は、1,075百万円(同15.3%減)となりました。

# [その他]

その他の売上収益は、主に健康食品の販売及び瑞穂農林株式会社が取り扱う培地活性剤によるものであります。また、2025年2月に販売を開始いたしました新規事業製品「キノコのお肉」シリーズの売上収益を本セグメントに含めており、積極的な販促施策の実施により商品の認知度向上に努め、販売強化に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間においては、健康食品及び培地活性剤の売上は低調に推移いたしました。この結果、その他の売上収益は、74百万円(同5.8%減)となりました。

各事業セグメント別売上収益は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)	増減率 (%)
茸	事業	7, 340	7, 209	△1.8
	まいたけ	3, 563	3, 544	△0.5
	エリンギ	905	904	△0. 2
	ぶなしめじ	1,601	1, 685	5. 3
	その他の茸	1, 269	1,075	△15. 3
そ	の他	78	74	△5.8
売	上収益	7, 419	7, 284	△1.8

#### (2) 当四半期の財政状態の概況

#### ① 財政状態の状況

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末(2025年6月30日時点)の資産合計は、33,609百万円(前連結会計年度末比4,259百万円減)となりました。流動資産は、7,203百万円(同4,297百万円減)となりました。これは主に、現金及び現金同等物が3,094百万円、公正価値変動による利得により生物資産が767百万円、営業債権及びその他の債権が559百万円、それぞれ減少したこと等によるものであります。非流動資産は、26,405百万円(同38百万円増)となりました。これは主に、有形固定資産が191百万円減少した一方、繰延税金資産が222百万円増加したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、22,215百万円(同3,127百万円減)となりました。流動負債は、6,485百万円(同3,016百万円減)となりました。これは主に、未払法人所得税が1,369百万円、従業員給付に係る負債が862百万円、その他の負債が699百万円、それぞれ減少したこと等によるものであります。非流動負債は、15,730百万円(同110百万円減)となりました。これは主に、約定返済により借入金が126百万円減少したこと等によるものであります。

### (資本)

当第1四半期連結会計期間末の資本合計は、11,393百万円(同1,131百万円減)となりました。これは主に、四半期損失の計上及び期末配当の実施等により利益剰余金が1,115百万円減少したこと等によるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ3,094百万円減少し、809百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、2,283百万円(前年同期は707百万円の使用)となりました。これは主に、生物資産の減少額769百万円、営業債権及びその他の債権の減少額566百万円の計上があった一方、法人所得税の支払い1,505百万円、従業員給付に係る負債の減少額863百万円、税引前四半期損失736百万円、その他に含まれる未払消費税等の減少額325百万円、営業債務及びその他の債務の減少額286百万円の計上があったこと等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、127百万円(前年同期は373百万円の使用)となりました。これは主に、茸事業に係る設備更新等に伴う有形固定資産の取得による支出159百万円があったこと等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、690百万円(前年同期は121百万円の獲得)となりました。これは主に、配当金の支払い474百万円、長期借入金の返済による支出128百万円があったこと等によるものであります。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2025年5月9日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。 なお、当該業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

# 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

# (1) 要約四半期連結財政状態計算書

	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間末 (2025年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	3, 903	809
営業債権及びその他の債権	2, 490	1, 930
棚卸資産	1,839	1, 934
生物資産	3, 106	2, 339
未収法人所得税	14	16
その他の資産	146	173
流動資産合計	11, 501	7, 203
非流動資産		
有形固定資産	17, 784	17, 592
投資不動産	94	94
のれん及び無形資産	5, 932	5, 959
使用権資産	210	208
退職給付に係る資産	307	311
その他の金融資産	186	174
繰延税金資産	1, 785	2, 007
その他の資産	65	56
非流動資産合計	26, 367	26, 405
資産合計	37, 868	33, 609

	V >====================================	中位、日刀门)
	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間末 (2025年6月30日)
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	2, 886	2, 783
未払法人所得税	1, 370	1
従業員給付に係る負債	2, 512	1,650
1年内返済予定の長期借入金	1, 422	1, 422
リース負債	141	151
引当金	193	63
その他の金融負債	105	241
その他の負債	869	170
流動負債合計	9, 502	6, 485
非流動負債		
借入金	15, 435	15, 309
リース負債	161	172
繰延税金負債	152	146
引当金	21	21
その他の金融負債	69	80
その他の負債	0	0
非流動負債合計	15, 841	15, 730
負債合計	25, 343	22, 215
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	△6, 067	△6, 065
利益剰余金	18, 334	17, 219
自己株式	△7	△39
その他の資本の構成要素	6	19
親会社の所有者に帰属する持分合計	12, 366	11, 233
非支配持分	159	160
資本合計	12, 525	11, 393
負債及び資本合計	37, 868	33, 609

# (2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 (要約四半期連結損益計算書)

(単位:百万円)

		(十匹・日万日)
	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
収益		
売上収益	7, 419	7, 284
公正価値変動による利得	2, 752	1, 553
収益合計	10, 172	8, 838
売上原価(*1)	8, 158	7, 410
売上総利益	2, 014	1, 428
販売費及び一般管理費	2, 083	2, 183
その他の収益	8	52
その他の費用	27	17
営業損失(△)	△87	△719
金融収益	55	44
金融費用	68	61
税引前四半期損失 (△)	△101	△736
法人所得税費用	0	△95
四半期損失(△)	△101	△640
四半期損失 (△) の帰属		
親会社の所有者	△99	△636
非支配持分	$\triangle 2$	$\triangle 4$
1株当たり四半期損失(△)		
基本的1株当たり四半期損失 (△) (円)	△2. 48	△15. 95
希薄化後1株当たり四半期損失 (△) (円)	△2. 48	△15. 95

経営者は同業他社との比較可能性を勘案し、「材料費、人件費等」の情報は財務諸表利用者にとって有用であると考えていることから、要約四半期連結損益計算書に注記として自主的に開示しております。「材料費、人件費等」は、IAS第41号「農業」に基づき認識した公正価値変動による利得を含まない当社グループが販売した製品の製造原価及び商品の仕入原価であります。

(*1) 売上原価の内訳		
材料費、人件費等	5, 329	4, 952
公正価値変動による利得	2, 828	2, 457
合計	8, 158	7, 410

# (要約四半期連結包括利益計算書)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
四半期損失 (△)	△101	△640
その他の包括利益(税効果控除後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する	1	0
資本性金融資産	1	Ü
純損益に振り替えられることのない項目合計	1	0
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の外貨換算差額	21	17
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	21	17
その他の包括利益(税効果控除後)合計	22	17
四半期包括利益	△78	△622
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△76	△623
非支配持分	△2	0

# (3) 要約四半期連結持分変動計算書 前第1四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年6月30日)

(単位:百万円)

(中區:日2)								
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2024年4月1日残高	100	△6, 067	17, 405	△17	25	11, 446	164	11,610
四半期損失(△)	-	-	△99	-	-	△99	$\triangle 2$	△101
その他の包括利益	-	-	_	-	22	22	-	22
四半期包括利益合計	-	-	△99	-	22	△76	$\triangle 2$	△78
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
株式報酬取引	-	2	-	-	-	2	-	2
剰余金の配当	-	-	△398	-	-	△398	-	△398
その他	-	-	_	-	-	-	2	2
所有者との取引額等合計	-	2	△398	-	-	△396	2	△394
2024年 6 月30日時点の残高	100	△6, 064	16, 907	△17	48	10, 973	163	11, 137

# 当第1四半期連結累計期間(自2025年4月1日 至2025年6月30日)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2025年4月1日残高	100	△6, 067	18, 334	△7	6	12, 366	159	12, 525
四半期損失(△)	-	1	△636	-	-	△636	$\triangle 4$	△640
その他の包括利益	-	-	-	-	12	12	5	17
四半期包括利益合計	1	ı	△636	1	12	△623	0	△622
自己株式の取得	-	1	_	△32	-	△32	-	△32
株式報酬取引	-	2	_	-	-	2	-	2
剰余金の配当	-	-	△478	-	-	△478	-	△478
その他	-	-	_	-	-	-	-	-
所有者との取引額等合計	I	2	△478	△32	I	△508	-	△508
2025年6月30日時点の残高	100	△6, 065	17, 219	△39	19	11, 233	160	11, 393

# (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期損失(人)	△101	$\triangle 736$
減価償却費及び償却費	578	555
支払利息	55	50
固定資産売却損益(△は益)	_	$\triangle 0$
固定資産除却損	20	13
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	662	566
棚卸資産の増減額(△は増加)	△409	△92
生物資産の増減額(△は増加)	328	769
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	83	△286
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	$\triangle 0$	$\triangle 4$
従業員給付に係る負債の増減額(△は減少)	△386	△863
その他	△585	$\triangle 734$
小計	245	△761
利息の支払額	△16	△16
シンジケートローン手数料の支払額	$\triangle 3$	_
法人所得税の支払額	△933	△1,505
営業活動によるキャッシュ・フロー	△707	△2, 283
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△382	△159
有形固定資産の売却による収入	_	0
無形資産の取得による支出	_	$\triangle 5$
その他	8	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△373	△127
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の借入による収入	700	_
長期借入金の返済による支出	△128	△128
リース負債の返済による支出	△54	△54
自己株式の取得による支出	_	△32
配当金の支払額	△395	$\triangle 474$
財務活動によるキャッシュ・フロー	121	△690
現金及び現金同等物に係る為替変動の影響額	12	7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△947	△3, 094
現金及び現金同等物の期首残高	2, 797	3, 903
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,850	809

#### (5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

#### (セグメント情報)

### ① 報告セグメント

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会(最高経営意思決定者)が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスについて、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している「茸事業」を報告セグメントとしております。「その他」は報告セグメントに含まれない事業が含まれております。

なお、まいたけ事業、エリンギ事業及びぶなしめじ事業等は、売上収益の推移など経済的特徴が概ね類似しており、かつ、(a) 製品及びサービスの性質、(b) 生産過程の性質、(c) 当該製品及びサービスの顧客の類型又は種類、(d) 当該製品の配送又は当該サービスの提供のために使用する方法、(e) 規制環境の性質のすべてが類似しているため、「茸事業」として集約しております。報告セグメントの事業内容は次のとおりであります。

	事業内容
茸事業	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじ等、茸製品の製造販売

## ② 報告セグメント情報

報告セグメントの会計処理の方法は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上収益は市場実勢価格に基づいております。

前第1四半期連結累計期間(自2024年4月1日 至2024年6月30日)

(単位:百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	7, 340	78	7, 419	_	7, 419
セグメント間の内部売上収益	_	_	_	_	-
<b>□</b>	7, 340	78	7, 419	_	7, 419
セグメント利益 (△は損失)	△89	2	△86	△0	△87
金融収益					55
金融費用					68
税引前四半期損失 (△)					△101

(注) セグメント利益 (△は損失) の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自2025年4月1日 至2025年6月30日)

(単位:百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	7, 209	74	7, 284	-	7, 284
セグメント間の内部売上収益	_	ı	-	ı	_
<b>≅</b> +	7, 209	74	7, 284	_	7, 284
セグメント利益 (△は損失)	△720	△32	△753	34	△719
金融収益					44
金融費用					61
税引前四半期損失 (△)					△736

(注)セグメント利益(△は損失)の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

# (1株当たり利益)

基本的1株当たり四半期損失及び希薄化後1株当たり四半期損失の算定基礎は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
基本的1株当たり四半期損失算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期損失(△)(百万円)	△99	△636
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	_	_
基本的1株当たり四半期損失の計算に使用する 四半期損失(△) (百万円)	△99	△636
期中平均普通株式数(千株)	39, 884	39, 882
基本的1株当たり四半期損失(△) (円)	△2. 48	△15. 95
希薄化後1株当たり四半期損失算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期損失の計算に使用する 四半期損失(△) (百万円)	△99	△636
四半期利益調整額(百万円)	_	_
希薄化後1株当たり四半期損失の計算に使用する 四半期損失(△) (百万円)	△99	△636
期中平均普通株式数(千株)	39, 884	39, 882
希薄化後期中平均普通株式数 (千株)	39, 884	39, 882
希薄化後1株当たり四半期損失 (△) (円)	△2. 48	△15.95

# (重要な後発事象)

該当事項はありません。